

2019年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

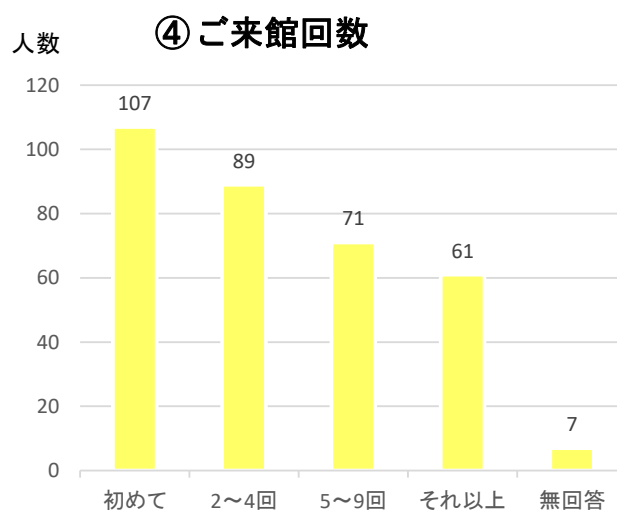
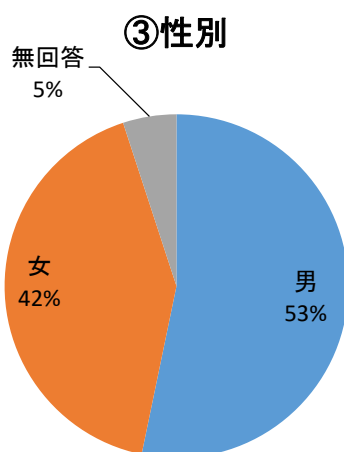
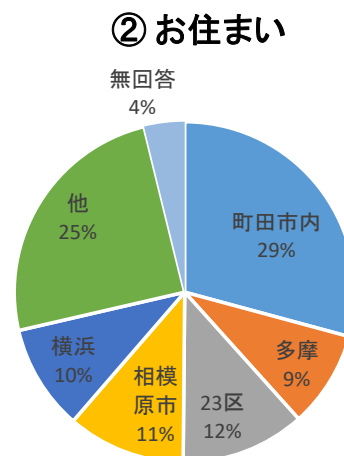
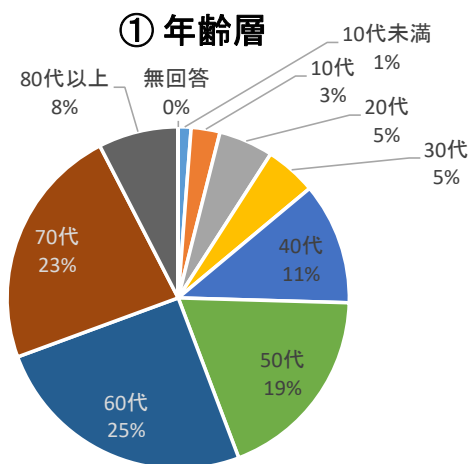
展覧会名	美人画の時代—春信から歌麿、そして清方へ—			担当者名	村瀬可奈、藤村拓也			
会期	2019年10月5日(土)～11月24日(日)			開催日数	45日(うち2日は台風のため休館)			
協賛・後援・協力	助成: 芸術文化振興基金							
巡回館	なし							
展覧会概要	数々のスター絵師が活躍した、18世紀後半の浮世絵界。天明・寛政(1781-1801)を中心とするこの時期は、いつからか浮世絵史の「黄金期」として親しまれてきた。その中心となったのが、人物を美しく生き活きと描いた「美人画」である。鈴木春信、磯田湖龍齋、勝川春章、鳥居清長、喜多川歌麿、鳥文斎栄之ら、個性豊かな絵師が次々と登場し、理想の美人像を追い求めた。本展は、この「美人画の時代」の軌跡を、約240点の版画、版本、肉筆画で辿ることを目的とした。時を経て、天明・寛政が「黄金期」として高く評価されてゆくなか、鍋木清方や上村松園ら近代の画家たちが往時の美人画に想を得ていたことにも目を向けた。							
ねらい・対象	版画に加えて約40点の肉筆画を展示。名品のみならず、初出品の作品や資料的価値の高い作品も展示し、多様な内容とした。前期後期で大幅な展示替えをし、リピーター割引を導入することで再来館を促した。さらに町田市ふるさと納税「町田市立国際版画美術館に『歌麿』を呼ぼう!」の寄附金によって購入した歌麿作品も展示し、地域と美術館活動のつながりを感じてもらえる展示を目指した。							
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数			
	記念講演会1	10月20日(日)	「美男? 美女? “美人”画は浮世絵に咲く大輪の花!」	樋口一貴 (本展企画協力者)	61人			
	記念講演会2	11月9日(土)	「歌麿美人画の特質と影響」	当館館長 大久保純一	90人			
	摺の実演	10月6日(日)	「浮世絵の技に触れる—摺の実演と解説—」	公益財団法人 アダチ伝統木版画技術保存財団	87人			
	鑑賞会	11月9日(土) 台風により10月12日(土)から延期	家族鑑賞会	富田めぐみ	23人			
	スペシャルギャラリートーク	11月10日(日)	「肉筆美人画の魅力—復元研究を通して—」	向井大祐 (本展出品作家)	74人			
	ギャラリートーク	10月13日(土)、11月4日(月・振休)	担当学芸員によるギャラリートーク	当館学芸員 村瀬可奈	47人、55人			
観覧料	一般	65歳以上	大・高生					
	900円	450円	450円					
観覧者数	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、65歳以上	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	6,269人	3,128人	9,397人	5,860人	2,913人	369人	255人	—人
	目標値	12,400人						
主な収入	観覧料収入	図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源				
	3,318千円	1,621千円	57千円	2,287千円				
事業経費	<ul style="list-style-type: none"> ・講師謝礼 75千円 ・原稿執筆謝礼 90千円 ・展覧会協力謝礼 366千円 ・展覧会出陳謝礼 1,015千円 ・通信運搬費 4,963千円 ・作品額装委託料 556千円 ・広告宣伝委託料 1,356千円 ・HP多言語化委託料 300千円 ・ポスター等作成委託料 3,682千円 ・ディスプレイ作成委託料 1,573千円 			13,976千円				
主な広報・取材等の講評	【テレビ】NHK日曜美術館アートシーン、J:COM 【ラジオ】エフエムさがみ 【新聞】東京新聞(10月6日)、読売新聞(10月12日東京多摩版)、神奈川新聞(10月28日文化面)、日本経済新聞(11月9日土曜版文化面)ほか 【ウェブ】和楽web、インターネットミュージアム、OBIKAKEほか							

アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
					企画の内容	展示作品	展示の仕方等
	340 件	3.6 %	29 %	65 %	96.1 %	95.8 %	85.8 %
	主なご意見	別紙のとおり。					
工夫と反省点、改善方法	予備調査	2018年10月頃より、各地の所蔵者、所蔵機関への作品調査および出品交渉を行った。東京近郊のほか、遠方では愛知、京都、大阪、山口へ赴き、貴重な資料の数々を閲覧した。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、国内各地で浮世絵の展示が増えていることや、テーマとして美人画が取り上げられることが偶然重なるなどの状況下で、当初の希望通りに出品交渉が進まない場面も多々あった。しかし、企画協力者である樋口一貴氏の尽力もあり、約30箇所より作品調査および拝借の協力を得ることができた。					
	作品選択	作品保存の都合上、大部分が展示替えとなるため、常時150点程度が展観できるよう合計245点の作品を選定した。第1章では、清長と歌麿を中心とする美人画の様式変遷が、初めて観る人にもわかりやすく紹介できるよう心がけた。第2章では、普段浮世絵を見慣れている美術ファンや研究者にも新鮮に映るよう、「似顔」「雅俗」「性別」といった各論のもとに作品を選定。初公開の肉筆画や、18歳以上が観覧できる春画コーナーも設けた。第3章では、当館のコレクションを活かし、近代美人画へのつながりを展観した。					
	図録作成	原稿の執筆は、樋口一貴氏、館長および担当学芸員で分担した。論考3本、コラム3本に加えて、出品作品すべての画像と作品解説を掲載した。また臨時学芸員の編集による主要参考文献も収録した。このうち18頁分は春画を掲載していたため、販売見本には当該箇所をクリップ止めし、18歳未満は閲覧できないよう注意書きをした。販売数は目標である600冊を上回ったが、通常より100冊多く印刷していたため、残部が出てしまったのは残念である。					
	広報	短い会期で入場者数目標へ近づけるため、例年よりも8,000枚チラシを増刷し、1か月早くに配布を開始した。駅貼りポスター数も増やし、来館者割合の高い神奈川県内の駅数を増やした。またこれまでに実施していた車内吊りは止め、ウェブ広告や美術系雑誌の広告を導入した。しかし、ウェブ広告に関しては初めて実施することもあり準備に時間を要し、会期後半での実施となった。またHPを充実させたり、ブログやSNSの更新が十分に行うことができなかったことも、入場者数が伸び悩んだ原因と思われる。今後は広報の効果を検証しながら、広報に関わる職員体制も見直す必要がある。一方で、会期中に展示作品に関する映画上映や、他館での類似企画の開催が重なった。交換チラシ等で互いに広報協力をしたり、関連して新聞に掲載されたりなど、タイミングよく広報の場をいただけたことはよかった。					
	ディスプレイ	展示後半(2～3章)に肉筆画が集中していたことから、壁面展示ケースの配置上、通常とは逆順路の導線とした。そのため展示室の入口を間違える来館者も多く、案内する受付スタッフの負担が増えたことが反省点である。展示室内では、作品キャプションのほか章解説、節解説を日英併記とした。拝借作品が多数であったため、撮影可能作品はふるさと納税により購入した当館所蔵の歌麿作品の1点に絞った。SNSでは撮影画像とともに感想を記す投稿が多くみられた。春画コーナーは18歳未満は入室禁止として、可動壁とカーテンによるゾーニングを行った。当初はコーナーを看視するボランティアの導入を検討したが、他館での展示例を参考に、注意書き看板と従来の看視スタッフの案内のみで実施。特に大きな問題やクレームは発生しなかった。					
	展示撤去	約200作品が拝借品であったため、借用・返却ともに2～3週間をかけて輸送した。点検とトラックへの同乗は、担当者ほか学芸員が分担して行った。展示の事前準備として、他の係員の協力を得て、普段使用しない掛軸用展示ケースのクリーニングと換気を行った。展示・撤去作業は、予算の都合から作業員数を減らし、代わりに作業日数を増やした。日数が多い分通常よりも落ち着いて取り組むことができたが、軸装作品の展示に時間を要し、最終日に時間外作業が発生したことは反省すべき点である。展示替えは、会期中に1度、作業員による大幅な展示替えを行ったほか、毎週末担当学芸員が細かな展示替えを行った。前期後期の入れ替えは1日で実施したが、作品や作業員の安全上、今後は2日間確保するなど日数を検討してもよいと感じた。					
	イベント	記念講演会は企画協力者である樋口一貴氏と当館館長に出演を依頼した。「浮世絵の技に触れる一摺の実演と解説」では、公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団による北斎作品の摺実演が行われた。出品作家である向井大祐氏によるスペシャルギャラリートークでは、展示室内にて画像や資料を見せながら肉筆画の見どころや復元模写の方法についてお話いただいた。今回で3回目となる家族鑑賞会は、台風の影響で急遽日程を変更して実施した。再度参加の呼びかけを行うこととなったが、土曜の開催だったため保護者の参加が多く、当日は賑わいをみせた。また主催イベントではないが、会期中に国際浮世絵学会や美術史学会の研究会が館内で開催されたことで、美術関係者に多く来館してもらうことができた。ただ会期中、週末ごとのイベントをこなすことに労力がかかり、鑑賞者の反応を検証することや、広報活動に時間が割けなかった。今後は後者とのバランスを考えながら、イベントの数や内容を検討したい。					
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・2017年度より実施している「はんび浮世絵プログラム」の第三弾として実施した。 ・各種の割引制度を導入した。割引内容と利用者数：リピーター割引(109人)、着物割引(46人)、文学館との相互割引(48人)、タクシー割引(15人)、パスポート割引(4人)、シェアサイクル割引(1人) ・土日に限り、国際交流センターのボランティアによる英語ガイド(館内案内)を実施した。 ・台風19号の影響により、10月12、13日(土日)は休館とした。三連休にかかる土日であり、来館者数にも影響が生じた。 						

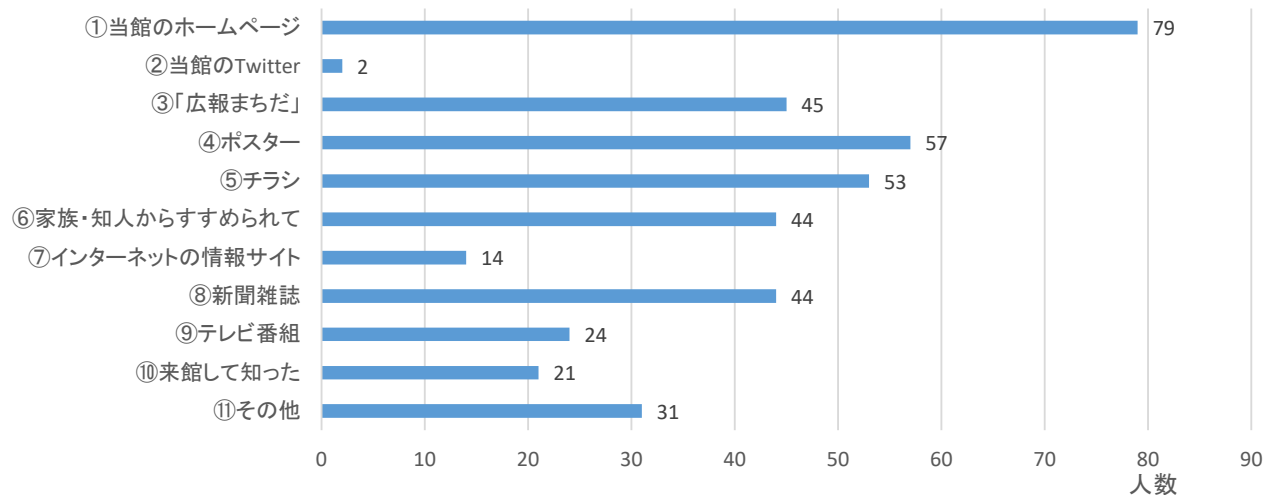
「美人画の時代—春信から歌麿、そして清方へ」展 アンケート集計結果

開催期間：2019年10月5日（土）～11月24日（日）

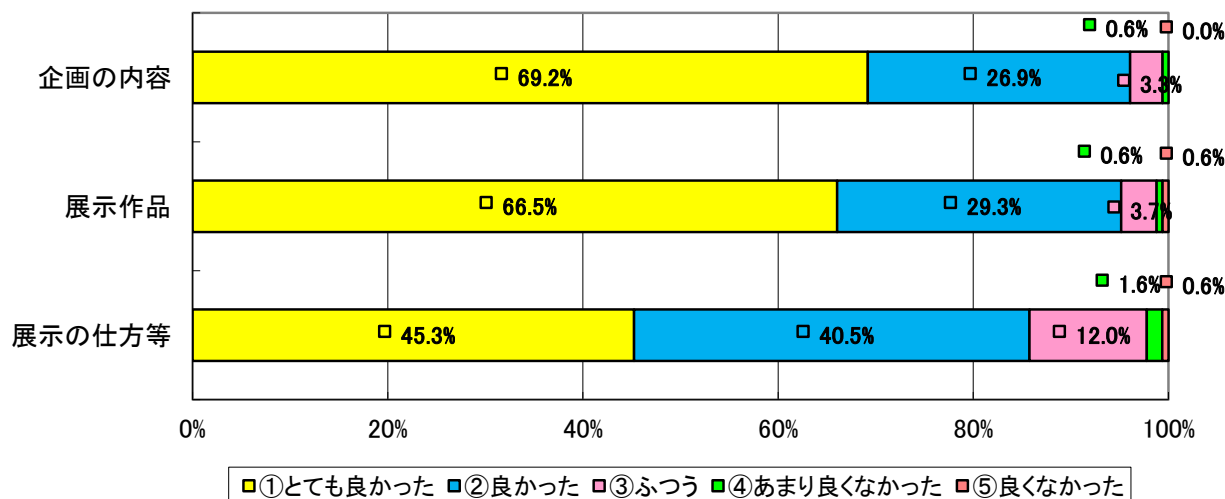
回答者数：340人（総入館者数：9,397人 アンケート回収率：3.6%）



⑤ 展覧会情報の入手



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

◆企画の内容について

浮世絵が好き／浮世絵をじっくりじっくり見たのが初めてだったのでよかった／着物が好きなので美人画が好き／『浮世絵モダン』展(※2018年)を見て以来美人画が好きになった／美人画の巨匠と呼ばれる歌麿、清方、五葉に至るまで多く観られて流れもよくわかり嬉しかった／浮世絵で美人画というありがちなテーマであまり期待していなかったが、時代をしばり視点を変えながら深く掘り下げていく内容に、見ていて飽きることがない、とても良い展覧会だった／いろいろなところから集めていることとか、肉筆画や春画まで見せていることには、版画美術館としてのやる気や心意気を感じる

◆展示作品について

久々に歌麿をまとめて見られてうれしかった／近代の作品(清方、松園、五葉)まで見られてよかった／竹橋にて清方の企画展をみた後の鑑賞だったので面白かった／歌麿『北国五色墨 川岸』が見たいため、本展を行脚して3回目です／多くの収集家の協力を得た充実した企画。公立美術館で春画展示は頑張った！最後の向井さんのような若い作品展示も未来を感じてよかった／栄之の作品が1点でも展示されているのなら、と来館したが、多くの作品があり感激した／大好きな春信や松園がじっくり見られて幸せでした／展示替えの情報をもう少しHPに出してほしい／多すぎて疲れた／ふるさと納税で購入された歌麿の版画の見事さに感服しました

◇春画の展示について: 春画は一度実物を見てみたかったので満足です／春画が見られると思わず、貴重な時間になった／春画を分けて見せていた配慮は素晴らしい／大英断ありがとうございました...など好評が寄せられた。

◆展示の仕方やキャプションについて

解説が多くてよかった／丁寧かつ平易な文章で解り易かった／音声ガイドがあるとよかった／展示替え作品のキャプションに印をつけてもらいたい／和歌の読み下しが欲しかった／ガラスケース内の作品が遠くて細部が見づらかった／暗いので解説が読みづらい／文字が小さい

◆展示室の環境について

静かでよかった／日曜美術館で放送されたので混雑するかと思ってあわててきたが、それほどでもなくゆっくり見られてよかった／浮世絵なので仕方がないが、室内が暗かった／トークフリーデーが良い！／話し声がうるさくてゆっくり鑑賞できなかった

◆その他

土日だけでもコミュニティバスの運行を／博物館が閉館になって、ますますこの美術館の役割は大きいと思う／もっと宣伝してはいかがでしょうか／自宅近くにこんなすてきな美術館があるとは知りませんでした。これからも楽しみにしています

集計結果では60～80代以上が全体の半数を超え、浮世絵という展示内容が高齢者に好まれるテーマであることを示している。多くの展覧会は女性の来館者が多い傾向にあるが、本展では男性のほうが多かったことも特徴的である。地域をみると、「町田市内」に次いで「その他」が多く、内訳では川崎市、大和市、藤沢市など神奈川県が多かった。

情報源としては公式HPが最も多かった。当館が大きく取り上げられたNHK日曜美術館や日経新聞、また太田記念美術館やアダチ版画研究所からの情報を挙げる方もみられた。ちなみに、展示替え情報や春画が展示されていることなどはHPに掲載していたものの、知らずに来館したという声が複数みられた。HPのわかりやすいレイアウトやSNSでの発信を工夫していきたい。